

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

① 第三者評価機関名

株式会社シーサポート

② 施設名等

名称	エンジェルホーム
施設長氏名	小島勝之
定員	87人
所在地(都道府県)	埼玉県
URL	https://kodomonomachi.jp/

③ 実施調査日

開始日	2014/5/1
評価結果確定日	2014/12/30

④ 総評

<p>【特に評価が高い事項】</p> <ul style="list-style-type: none">●管理職を中心に経験豊富かつ配慮できる職員により家庭や関係機関との調整に力を発揮している。また担当職員が煮詰まった際にも一緒に考え、フォローし、子どもたちにとって最善となる支援が実践されるよう努めている。職員に対しては、養育スキルを上げることだけでなく、「想像力を鍛える」、「チームで支える」、「常に自分に問う」、「子どもたちとの関係をつくる」ことに注力した職員への指導に努めている。●施設長は、管理職となる前から職員の自主参加による学習会を開催し続けており、長年に渡り職員の啓発に尽力している。学習会は、知識の研鑽だけでなく、本音でぶつかり合うことを目的としており、職員間のコミュニケーションの向上・チームワークの醸成にも寄与している。在籍年数の長い職員ではなく、実の詰まった経験を多く積んだ職員の養成の場としても機能している。●施設内に設置されているクリニックによる健康管理、食への興味を引き出す調理室の様々な取り組み、丁寧な心理支援、後援会によるバザーの開催・奨学金等の支援・職員研修への後援、ボランティアによる創作活動、充実したホームページなど直接処遇を取り巻く様々な環境が整えられている。 <p>【期待される事項】</p> <p>短期にとらわれない課題を話し合う「将来構想委員会」が設置され、地域への開放・人事考課の実施・人材育成プログラムの策定・メンタルヘルスへのサポート・セキュリティの向上等具体的課題10個が検討されています。各項目に対して実効性の検証をもって着実に実現されていくことが期待されます。また具体的事項についても、アフターケアの記録の個別化と様式の整理や新種のインターネット接続機器への調査と対応などが認識されています。</p> <p>また児童家庭支援センターの併設、ドロップアウトした子どもたちへの更なるアフターケア、実習生を採用へ繋げる方策など中長期に渡る構想も出されており、実現が期待されます。</p>

⑤ 第三者評価結果に対する施設のコメント

<p>第三者評価を受審することで施設を多角的な視点から見直す機会とすることができた。特に施設の現状を職員や子ども達がどのように感じ、評価しているのかを知ることができたことは管理者として得難い経験となった。どうしてもその時点で表面化している問題に焦点が偏りがちだが、網羅的に施設を評価し直すことでバランスのとれた改善策を模索することができる。丁寧に聞き取りをしてくださったことに感謝したい。</p>
--

⑥ 第三者評価結果（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

1 養育・支援

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	子どもの存在そのものを認め、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止め、子どもを理解している。	a
②	基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	a
③	子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a
④	発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
⑤	秩序ある生活を通して、基本的生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>●様々な背景を抱える子どもたちに対して関係を構築できるか、その関係の中でどのように養育支援を実行できるかを職員に問い、日々学習の機会と捉え、職員の指導に努めている。子どもたちが生活の中で試行錯誤する過程を大事にしつつ、子どもによっては生活の枠組みを明確に整え、「ルールを守る」ことの大事さを教えている。</p> <p>●大規模施設として多くの子どもたちを養育する中、子どもたち一人ひとりへの丁寧な支援に努めている。朝夕の時間帯における職員の手厚い配置、宿直勤務時を利用した高齢児等からの相談対応、担当制と寮全体によるチームワークを融合した支援、誕生日の個別外出など配慮と配慮をもって取り組んでいる。</p>		

(2) 食生活		第三者 評価結果
①	食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	a
②	子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a
③	子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	a
(3) 衣生活		
①	衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを提供している。	a
②	子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a

(4) 住生活		
①	居室等施設全体がきれいに整美されている。	a
②	子ども一人一人の居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となっている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>●調理室での一括調理が行われているものの、それぞれの部屋に炊飯器・電子レンジがあり、温かい食事が摂れるよう配慮がなされている。偏食についても無理やり食べさせるのではなく、その子どもによる目標をもちながら・その子の特性を考えながら指導にあたっている。</p> <p>●飾りつけにより温かみを出す、年齢によりプライベートな空間を提供するなど寮ごと・ユニットごと・担当職員ごとに配慮しながら進められている。また「衛生巡視」と呼ばれる環境チェックも定期的になされ、安全で衛生的な生活ができるよう努めている。寮の移動が予定されており、より子どもたちが心地よく暮らせるようになることが期待される。</p>		

(5) 健康と安全		第三者 評価結果
①	発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	a
②	医療機関と連携して一人一人の子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	a
(6) 性に関する教育		
①	子どもの年齢・発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>●施設内にクリニックが設置されており医師・看護師から直接指示や指導を受けられる環境となっている。内科・耳鼻科等の嘱託医による診察が可能となっており、「医師・看護師と職員」、「医師同士」、「外部の医療機関」との連携が密に・スムーズに行われる体制の構築がなされている。</p> <p>●性に関する教育については、対等な人間関係の構築など総合的な問題として捉えている。性的な問題をクローズアップしたり、実態にそぐわない教育をすることよりも、「人を大切にする」ことをベースにした「生き方」そのものを見つめる指導をしていくことに注力がなされている。</p>		

(7) 自己領域の確保		第三者 評価結果
①	でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	a
②	成長の記録（アルバム）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	a
(8) 主体性、自律性を尊重した日常生活		
①	日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちの問題として主体的に考えるよう支援している	b
②	主体的に余暇を過ごすことができるよう支援している。	a
③	子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>●子どもたちの写真がアルバムに収められており、成長の記録として振り返ることができる。また子どもの状況にあわせて、ライフストーリーワークがなされており、生い立ちの整理については困難を伴いながら、わかりやすい資料の作成や丁寧な説明をもって取り組んでいる。</p> <p>●施設内においてサッカー、華道、ソフトボール、書道、マジックなどのクラブがあり、子どもたちが各々の希望に基づき所属し、活動している。またボランティアによる創作活動が毎月行われており、自由に楽しむことを大事にした指導により個性あふれる作品が創られている。また将来的には作品展の開催も模索されており、実現により素晴らしい作品が多くの方の目に触れ、多くの癒しをもたらすことが予想される。</p>		

(9) 学習・進学支援、進路支援等		第三者 評価結果
①	学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	b
②	「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
③	職場実習や職場体験等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>●大学生や社会人による学習ボランティア・学習塾の活用・職員による宿題の指導等により基礎学力の向上に努めている。大学等の進学希望についても後援会から奨学制度によるサポートを得ながら実現がなされている。</p> <p>●希望する子どもたちに対しては、アルバイトを通して就労と社会経験が積めるよう支援に努めている。普通自動車免許も後援会の支援により取得が奨励されている。また就労に役立つ資格を取得し就職に役立てた実績も有しており、子どもたちの将来を見据えた指導に取り組んでいる。</p>		

(10) 行動上の問題及び問題状況への対応		第三者 評価結果
①	子どもが暴力・不適応行動などの問題行動をとった場合に、行動上の問題及び問題状況に適切に対応している。	a
②	施設内で子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
③	虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合、施設内で安全が確保されるよう努めている。	a
(11) 心理的ケア		
①	心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>●常勤の心理士が配属されており、入所児童全員との面接、見立てや方針等の所見の策定など心理的支援がなされている。医師と子どもたちの間に入りながら・職員と情報共有しながら・生活の場面に入りながら支援がなされている。また有志での勉強会も開催するなど積極的な取り組みがなされている。</p> <p>●問題行動については丁寧に・繰り返し・時間をかけて対応するよう努めている。ケース会議については、定期のもの、併設の施設との合同のもの、寮ごとのもの、関係機関と連携したもの等それぞれの機会を利用しながら検討がなされている。また職員配置についても調整をしながら対応している。</p>		

(12) 養育の継続性とアフターケア		第三者 評価結果
①	措置変更又は受入れに当たり継続性に配慮した対応を行っている。	b
②	家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰後の支援を行っている。	a
③	できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	a
④	子どもが安定した社会生活を送ることができるよう退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>●設立65周年の記念式典の際には、過去の退所者による同窓会が行われており、懐かしい顔が集っている。また退所を控えた子どもたちへの顧問弁護士による講演会も企画されており、実現により社会にでる子どもたちへの後援となることが期待される。</p> <p>●アフターケアは必要に応じて行われており、困ったことがあったときには頼ってもらえるよう努めている。また成人式や結婚式など人生の節目節目に顔を合わせるなど様々な方策を伴う自立への援助が丁寧になされている。ドロップアウトしてしまった子どもたちに対しても更に何かできることがないかを模索している。</p>		

2 家族への支援

(1) 家族とのつながり		第三者 評価結果
①	児童相談所や家族の住む市町村と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。	a
②	子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。	b
(2) 家族に対する支援		
①	親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>●家庭支援専門相談員と寮の主任を中心に家庭支援がなされており、子どもと一緒に過ごすことの大事さを伝えることに注力しながら取り組んでいる。家庭との調整力が備わった職員により丁寧な指導に努めており、面会、外出、一時帰宅については、「実態に即しながら・段階をおって・プログラムに沿って・関係機関と協議しながら・他の子どもたちへの影響も考えながら」行われている。</p>		

3 自立支援計画、記録

(1) アセスメントの実施と自立支援計画の策定		第三者 評価結果
①	子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、子どもの個々の課題を具体的に明示している。	a
②	アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。	b
③	自立支援計画について、定期的実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。	b
(2) 子どもの養育・支援に関する適切な記録		
①	子ども一人一人の養育・支援の実施状況を適切に記録している。	a
②	子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。	b
③	子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>●自立支援計画の策定については、責任者の指導のもと子どもごとの担当者により策定されている。寮での会議や心理士からのスーパーバイズを経て一人ひとりの意向と目標に沿った計画となるよう努めている。今後の課題として自立支援計画の中途での見直し方法の確立・活用・職員間の共有について更なる向上がなされていくことが認識されている。</p> <p>●子どもたちの生活の記録は、学校・健康・家庭等各項目別に丁寧に記されている。子どもたちの見立てが適切になるよう職員の力量と資質の向上に取り組んでいる。また併設の施設との合同の会議、職員会議、管理職による会議、寮ごとの会議など目的別に多様に開催されている会議を中心に子どもたちの情報の共有に努めている。</p>		

4 権利擁護

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮		第三者 評価結果
①	子どもを尊重した養育・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。	a
②	社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	a
③	子どもの発達に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	a
④	子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。	b
⑤	子どもや保護者の思想や信教の自由を保障している。	a
(2) 子どもの意向への配慮		
①	子どもの意向を把握する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、養育・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。	b
②	職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組む。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>●カンファレンスが常態として開催されており、子どもたちの状況や意向についても日常的に話し合いがなされている。子どもたちの権利擁護についても施設長主催の学習会においてテーマとしてとりあげ、指導と周知に取り組んでいる。また日々の寮での生活の中でも折に触れ指導に努めている。</p> <p>●子どもたちの意向に対しては、苦情ボックスの設置や用紙の配布等を通して把握に努めている。日課やルールについても寮ごとに話し合いながら決め、共同生活がなされている。寮ごとの違いが大きくなりすぎないように配慮していくことが認識されている。</p>		

(3) 入所時の説明等		第三者 評価結果
①	子どもや保護者等に対して、養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。	a
②	入所時に、施設で定めた様式に基づき養育・支援の内容や施設での約束ごとについて子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
③	子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	a
(4) 権利についての説明		
①	子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	a

(5) 子どもが意見や苦情を述べやすい環境		
①	子どもが相談したり意見を述べたりしたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。	b
②	苦情解決の仕組みを確立し、子どもや保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。	a
③	子ども等からの意見や苦情等に対する対応マニュアルを整備し、迅速に対応している。	b
(6) 被措置児童等虐待対応		
①	いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a
②	子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
③	被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	b
(7) 他者の尊重		
①	様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>●暴力や不適切な関係の防止については、子どもたちに暴力防止・人権教育についての外部プログラムを実施するなど注力がなされている。子どもたちの持つ権利は、全ての子どもに対して等しく守られるべきものであることを常に意識し、運営および指導に取り組んでいる。</p> <p>●入所時の説明は、パンフレットや年齢に応じわかりやすく書かれている寮ごとの約束などを用いて行われている。入所児が「嫌だと思えることを率直に言えるように」・「不安を解消できるように」・「温かく迎えていることがわかるように」配慮した受け入れに努めている。またホームページは写真・施設の案内図・行事案内・ニュースなど充実した内容となっている。</p>		

5 事故防止と安全対策

		第三者 評価結果
①	事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。	a
②	災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	a
③	子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策の検討を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。	b

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

●センサーや防護柵の取り付けによる不審者侵入への対策がとられている。また遊具の腐食や故障についても注視がなされており、取り換え等の対応に取り組んでいる。子どもたちが安心・安全に暮らせるよう環境の整備と不測の事態への対応強化に努めている。

●衛生委員会による衛生と安全の点検が「衛生巡視」としてなされている。また子どもたちの事故防止に対しては、ヒヤリハット報告書が、防止対策と原因の究明をもって作成されている。職員会議等において職員へも周知し、再発の防止に努めている。

6 関係機関連携・地域支援

(1) 関係機関等の連携		第三者 評価結果
①	施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。	a
②	児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。	a
③	幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校など子どもが通う学校と連携を密にしている。	a
(2) 地域との交流		
①	子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。	b
②	施設が有する機能を地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。	b
③	ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。	a
(3) 地域支援		
①	地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	b
②	地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点)		
●町内会の施設ホールの利用、マイクロバスや機器の貸与など有する資源を地域に提供している。地域から様々な支援を受ける中、それらを地域に還元できる施設として存在することを標ぼうしており、将来的には児童家庭支援センターを併設することを思案している。		
●学校との連携を密にするよう努めており、定期での会合やPTA活動への参加を通して関係の構築に努めている。新しく赴任した先生への説明会の開催、施設の見学、食事会など様々な取り組みにより、子どもたちと施設への理解を深めてもらえるよう努めている。		

7 職員の資質向上

		第三者 評価結果
①	組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	a
②	職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	b
③	定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。	a
④	スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上を支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>●職員に対しては、養育スキルを上げるだけでなく、「想像力を鍛える」、「チームで支える」、「常に自分に問う」、「子どもたちとの関係をつくる」ことに注力しながら指導に努めている。また家庭の事情等での退職者の再雇用、試用期間中の指導、愛着形成を考慮した職員配置など様々な取り組みもなされている。</p> <p>●研修委員会が設置されており、中堅職員による座談会の開催等がなされている。外部研修参加後はレポートによる報告がおこなわれている。またSDS（自己啓発援助制度）の設置により外部研修への参加に対しても後援会等による補助を受けながら積極的に行われている。</p>		

8 施設の運営

(1) 運営理念、基本方針の確立と周知		第三者 評価結果
①	法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。	a
②	法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。	a
③	運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
④	運営理念や基本方針を子どもや保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
(2) 中・長期的なビジョンと計画の策定		
①	施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。	a
②	各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。	a
③	事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	b
④	事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b

⑤	事業計画を子ども等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
---	---	---

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

●将来構想委員会が管理者をはじめとする主要メンバーにより定期で開催されており、10個の中長期の目標が謳われている。地域への開放・人事考課の実施・人材育成プログラムの策定・メンタルヘルスへのサポート・セキュリティの向上等具体的課題への取り組みについて言及されている。実施できている項目についての検証もなされている。

●毎年度の事業計画も人材育成・感染症の防止など具体的目標をもって策定がなされている。職員会議での説明や事務所への設置を通して職員への周知にも努めている。

(3) 施設長の責任とリーダーシップ		第三者 評価結果
①	施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。	a
②	施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。	a
③	施設長は、養育・支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。	a
④	施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。	a
(4) 経営状況の把握		
①	施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。	a
②	運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。	a
③	外部監査（外部の専門家による監査）を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点)		
●施設長は、管理職となる前から職員の自主参加による学習会を開催し続けており、長年に渡り職員の啓発に尽力している。学習会は、知識の研鑽だけでなく、本音でぶつかり合うことを目的としており、職員間のコミュニケーションの向上・チームワークの醸成にも寄与している。在籍年数の長い職員ではなく、実の詰まった経験を多く積んだ職員の養成の場としても機能している。		
●要保護児童対策地域協議会・児童相談所との懇談・児童福祉施設協議会への参加により各種データ・資料・統計を収集し、取り巻く環境についての把握に努めている。		

(5) 人事管理の体制整備		第三者 評価結果
①	施設が目標とする養育・支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。	a
②	客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。	b
③	職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。	b
④	職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。	b
(6) 実習生の受入れ		
①	実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>●児童の抱える問題の複雑化に伴い、高度の専門性と受容できる人間性を伴った人材の確保が望まれている。近隣に大学があることから多くの実習生の受け入れがなされており、熱意のある・資質のある実習生を職員として迎え入れていく方策についても思案されている。</p> <p>●研修委員会は、職員研修の企画にとどまらず、バーベキューやボーリング大会などの職員親睦行事の開催にも尽力している。共助会の加入、新入職員への面談、後援会からの支援、有給休暇の取得奨励など多くの取組みをもって職員の福利厚生に対して取り組んでいる。</p>		

(7) 標準的な実施方法の確立		第三者 評価結果
①	養育・支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。	b
②	標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを組織的に実施できるよう仕組みを定め、検証・見直しを行っている。	b
(8) 評価と改善の取組		
①	施設運営や養育・支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。	b
②	評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立て実施している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>●運営管理規程・危機管理マニュアルなど施設運営・健康安全など施設の基幹に対してマニュアルが定められており、就業規則や個人情報保護をはじめとする各種規程もファイリングがなされている。規程やマニュアルは作る過程が大事であることが認識され、整備に努めている。</p> <p>●本評価に伴う自己評価については、タイプ5（施設長・職員ごとに自己評価表を作成）において行われている。職員自己評価からは、できているところと課題についてはっきりとした認識がなされていることがわかり、自分たちの養育支援に対する自信と子どもたちの健康と安全を守っている自負が感じられる。</p>		